幼稚園

4・5歳児　9～12月頃

桜井市立桜井西幼稚園

はばたくなら ①⑦

「おもしろそう！」
「やってみたい！」を大切に
～体を動かす遊びの中で～

取組について

■本園は、少人数であるが、異年齢で関わることも多くアットホームな幼稚園である。園庭は自然豊かで、子どもたちは戸外で遊ぶことが好きである。しかし、車での登園が大半を占め、歩く経験の少ない園児が多く、姿勢の保持がしにくい、よく転ぶ、疲れやすいなどの姿も見られる。運動遊びにおいても「無理」「できない」とすぐに諦める様子もみられる。固定遊具や職員が整えた環境では遊べるが、自分達で考えを出し合いながら遊びを進めることは苦手で、友達とのトラブルが起こることがしばしばあった。

■上記のような実態から、体を動かして遊ぶことを楽しいと感じてほしい、苦手だなと思うことでもやってみようとしてほしい、いろいろなことに意欲や自信をもって取り組んでほしいなど、保育者の願いが出てきた。

　職員間で研修をしたり、近隣の保育所との交流で情報交換・教材研究をしたりしながら、友達同士の遊びをつなぎ、今ある環境を生かしつつ、継続して体を動かして遊びたくなる環境構成に取り組むことにした。

この取組を通して…

〇継続して運動遊びを楽しむうちに、「おもしろそうだな」や「やってみたらできた」などが積み重なり、さらにいろいろな体を動かす遊びをしたり、あきらめずに取り組む姿が見られるようになったりした。そこへ至るまでには、保育者の幼児に対する見取りや、楽しそうだと思える環境の提案、友達との気持ちの共有などいろいろな要素が合わさっている。幼児の姿をしっかりと捉え、タイミングよく援助していくことが大切であることがわかった。また、園全体でも、異年齢が混ざり合って遊んだり、保育者も夢中になって一緒に遊んだりすることで遊びが活性化され、充実感や満足感へとつながった。

〇４歳児では手作り教材をきっかけとして繰り返し体を動かして遊ぶ中で、たくさんの「できた！」「楽しい！」を味わい、自分にもできる自信がついてきた。そのような経験は、遊びの興味の幅を広げることにつながり、「もっとこうしたい！」と、自分なりに積極的に考えたり、友達と一緒に繰り返し試して実現させようとしたりする姿に表れ始めている。

〇５歳児では、少し難しい遊びを繰り返し経験する中で、できるようになった喜びを友達や保育者、保護者などいろいろな人と共感して自信をつけてきた。また、友達の様子を見て、自分の知っていることやできることを伝えたり、励まし合ったりするなどして友達と一緒に遊ぶ楽しさを十分に味わったり、友達との絆を感じたりと心の育ちにもつながっていったと考える。

実践事例①　「やってみたい！」　４歳児　９月～１１月

ねらい　・保育者や友達と一緒に体を動かして遊ぶことを楽しむ。
自分から体を動かして遊びたい！楽しい！と思えるように、
いろいろな刺激を感じられるような手作り教材を取り入れることにした。

保育者の思いや援助
幼児の姿や言葉

私は、はいはいで行くで！

足の裏こそばい！

やってみたいなぁ…

保育室に場を整えることで、他の遊びをしている幼児も友達の様子をじっくり見たり、会話や動きに興味をもったりして、遊びに加わる幼児が増えてきた。跳ぶ、這う、くぐるなど体全体を使って繰り返し自分のやり方でいろいろな感触を楽しんでいる。

子どもの思い
外で遊びたいなぁ…
もっと体を動かしたいなぁ…

園庭の固定遊具や自然なども、遊びに取り入れて楽しめるような環境構成を考える。

保育者の願い
登る、潜ぐ、投げるなどいろいろな動きを経験させたいなぁ…

明日はサッカーゴール出したい！９月

上に乗ってかっこよくジャンプするで～！
長くなったから難しいなぁ

場が広くなり、動きがダイナミックになった。何回も挑戦して楽しむ姿がある。

サークルタイムでの振り返りで

サッカーゴール出したら面白そう
先生真ん中に立っててや。ゴールするから！

いつもは自分の考えを言わないＡ児がみんなの前で考えを言っている！ぜひ明日はその思いを叶えたい！

Ａ児が率先して遊びを楽しんでいる。

なぜサッカーゴールを出したら面白そうなのかを深く聞けば、もっとＡ児の思いに寄り添えたのかもしれない。

カリンの実が取りたい！１１月

園庭のカリンの木が今年も大きな実をつけた。

カリン取りたいなぁ。どうやったらいいやろ？
ジャンプをして、届くところの実は取れた。

枝、投げて取る？
手の届かない実をめがけて繰り返し枝を投げるがうまく当たらず、取れない。

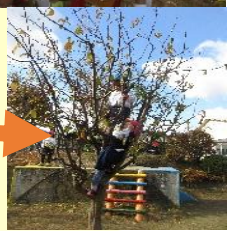
じゃぁ登ってみる？
何度もやってみるが足がうまく木に引っかからず、滑って登ることができない。

登ったら取れると思っている。ゲームボックスを１つ持ってきてみよう。

上の方は無理やなぁ…
もう１つゲームボックスを持ってくる。

これまでの経験の積み重なりからカリンを取る方法を自分達でいろいろ考えている。それぞれに考えを出し合い「必ず取れる」と繰り返し試す姿がある。

その後も木登り遊びを繰り返し楽しみ、ついにゲームボックスがなくても登れるようになった。



〇やってみたいと思うような遊びを保育者が、幼児の目につく場所に取り入れたことで、普段あまり自分から遊びが見つけられない幼児も興味をもって遊びだし、クラス全体で楽しさを味わうことができた。
〇サーキット遊びを戸外へと移動させたことで新たな運動遊びへと興味が広がった。その中で幼児の思いを受け止め、実現させることで認められたという満足感や、もっとやりたいという気持ちが生まれた。
〇幼児がどこに興味をもっているのかを遊びやつぶやきの中から探り、タイミングよく環境構成や声かけをすることで、友達や保育者と一緒に遊ぶ楽しさを味わうことへつながった。しかし、時にはさらに深く話を聞くことで、もっと幼児に寄り添ったかかわりや環境の提案ができたかもしれないと感じる。

実践事例②　フラフープを回したい！５歳児　１１月～１２月

ねらい　・友達と一緒に運動遊びに繰り返し挑戦し、達成感を味わう。

幼児が興味をもっている忍者になりきることで楽しんで運動遊びに取り組めるのではないかと考え、一斉活動でサーキット遊びを取り入れて幼児たちとコースを作って遊ぶことにした。

〈忍者修行をしよう〉

<保育所交流　11/1>

保育所での運動教室に参加し、同級生の友達が回す姿を見て「かっこいい」「できるようになりたい」と憧れの気持ちをもち刺激となった。

職員での共通理解

〇諦めずにやってみようとする気持ちが育ってほしい、成功体験を積んでほしいと考えた。
〇フラフープの遊びへの気持ちが高まっていることを職員みんなで共有し、継続して遊べるような声掛けをしていこうと共通理解する。

園全体での見守り・励まし

「どうやってできるようになったの？」「教えてほしいな！」と職員みんなで声を掛ける。なかなか回すことができず苦戦している保育者の姿も見せ、仲間として一緒に頑張ろう！

運動が苦手な幼児にとってはフラフープを回すことは難しそうだ。しかし、友達の様子をみてやってみようとしているので見守ってみよう。

サークルタイムで遊びを振り返り、友達同士でコツを伝え合う姿を認めたり、Ｂ児が毎日続けて頑張っていることを知らせたりする。

クラスだよりや**懇談会**などで遊びの過程や学びの姿を知らせていくことで家庭でも認めや励ましを受けることになり自信につながった。

預かり保育の時間でもフラフープを回そうとするくらい頑張っていて、Ａ児やＣ児が傍で一緒にやってみたり励ましたりしていた日に、ついにフラフープを回すことができた。

翌日、クラスのみんなにも預かり保育でのＢ児の姿を伝えると嬉しそうにしていた。
保護者と連携し、家庭でも声をかけてもらう。ビデオに撮ると、さらに他児や保護者に伝わりやすかったのではないかと考える。

Ｂ児の表情が明るくなり、進んで運動遊びをするようになった。自分の思いが出せるようになるなど自信がついた。

挑戦してできた経験や周りの人からの励ましが自信となって、さらに「やってみよう！」というサイクルが生まれた。縄跳びなどの遊びにも繰り返し挑戦しようという気持ちが育ってきている。

〇忍者の修行をイメージして遊び、難しい技にも友達と一緒に挑戦してみようという気持ちが高まった。フラフープを回すことは技術的に難しくなかなか成功体験につながりにくいが、できる、できないではなく諦めずに挑戦する過程を見守ることが大切であると感じた。
〇遊びを振り返ることで友達と思いを共有し、次の遊びにつながっていた。効果的な振り返りの方法を今後も探っていきたいと考える。
〇できた喜びを友達や保育者、家族に認めてもらうことで自信となった。友達とコツを教え合うことで粘り強く取り組めるようになり、できるようになった幼児がいるとクラスみんなで喜ぶなど仲間意識も強くなった。